

令和7年度

授 業 概 要

学校法人 穴吹学園

専門学校 穴吹リハビリテーションカレッジ

理学療法学科 1年

校訓

日
々
是
是
前
進

穴吹夏次

令和7年度生

カリキュラム

理学療法学科カリキュラム

分野	教育内容	授業科目	単位数	単位時間	1年		2年		3年		4年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野 14単位	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 14単位	心 理 学	2	15	30							
		情 報 科 学	1	30	30							
		生 化 学	2	15	30							
		統 計 学	2	15	30							
		人 間 工 学	1	30			30					
		物 理 学	1	30	30							
		健 康 科 学	1	30	30							
		医 学 英 語	2	15		30						
		人 間 育 成 学Ⅰ	2	15	30							
	人 間 育 成 学Ⅱ	2	15			30						
基 礎 分 野 合 計			16		180	30	90	0	0	0	0	0
専門基礎分野 30単位	人体の構造と機能 及び心身の発達 12単位	解 剖 運 動 学Ⅰ	1	30	30							
		解 剖 運 動 学Ⅱ	1	30		30						
		体 表 面 解 剖 学Ⅰ	1	30	30							
		体 表 面 解 剖 学Ⅱ	1	30		30						
		解 剖 生 理 学Ⅰ	1	30	30							
		解 剖 生 理 学Ⅱ	1	30		30						
		解 剖 生 理 学Ⅲ	1	30	30							
		解 剖 生 理 学Ⅳ	1	30	30							
		生 理 学 演 習	2	15		30						
		人 間 発 達 学	1	30		30						
		解 剖 学 実 習	1	30				30				
		小 計	12		300	60	0	0	0	0	0	0
	疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進 14単位	臨 床 心 理 学	1	30		30						
		一 般 臨 床 医 学	1	30			30					
		リハビリテーション診断学	1	30				30				
		リハビリテーション整形外	2	30				60				
		リハビリテーション神経学	1	30			30					
		リハビリテーション神経学Ⅱ	1	30				30				
		リハビリテーション内科学Ⅰ	1	30			30					
		リハビリテーション内科学Ⅱ	1	30				30				
		精 神 医 学	1	30			30					
		小 児 科 学	1	30			30					
		老 年 学	1	30		30						
		病 理 学	1	30		30						
		リハビリテーション栄養学・薬理学	1	30				30				
		小 計	14		0	330	90	0	0	0	0	0
	保健医療福祉と リハビリテーションの 理念 4単位	リハビリテーション医学概	2	15	30							
		理 学 療 法 概 論	2	15		30						
		保 健 医 療 福 祉 論	1	30			30					
		小 計	5		30	30	30	0	0	0	0	0
専 門 基 礎 分 野 合 計					330	420	120	0	0	0	0	0

※講義、演習は15～30時間で1単位。 実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

理学療法学科カリキュラム

分野	教育内容	授業科目	単位 数	単位 時間	1年		2年		3年		4年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	基礎理学療法学 6単位	基礎理学療法学Ⅰ	1	30			30					
		基礎理学療法学Ⅱ	1	30			30					
		基礎理学療法学Ⅲ	1	30			30					
		基礎理学療法学Ⅳ	1	30			30					
		日常生活活動学	1	30			30					
		理学療法研究論	1	30				30				
		小計	6		0	0	150	30	0	0	0	0
	理学療法管理学 2単位	理学療法管理学	2	15					30		30	
		小計	2		0	0	0	0	30	0	30	0
	理学療法評価学 6単位	理学療法評価学Ⅰ	2	30		60						
		理学療法評価学Ⅱ	2	30			60					
		理学療法評価学Ⅲ	1	30				30				
		動作分析セミナー	1	30				30				
		小計	6		0	60	60	60	0	0	0	0
	理学療法治療学 20単位	運動療法学	3	30			90					
		物理療法学	1	30				30				
		義肢装具学Ⅰ	1	30			30					
		義肢装具学Ⅱ	1	30				30				
		整形外科疾患の理学療法Ⅰ	2	30				60				
		整形外科疾患の理学療法Ⅱ	2	30				60				
		整形外科疾患の理学療法Ⅲ	1	30				30				
		中枢神経疾患の理学療法Ⅰ	2	30				60				
		中枢神経疾患の理学療法Ⅱ	1	30				30				
		内部障害の理学療法Ⅰ	1	30				30				
		内部障害の理学療法Ⅱ	1	30				30				
		内部障害の理学療法Ⅲ	1	30				30				
		発達障害の理学療法	1	30				30				
		ペーパーペーシェントセミナー	2	30					60		60	
		小計	20		0	0	120	420	60	0	60	0
	地域理学療法学 3単位	地域理学療法学	1	30				30				
		生活環境学Ⅰ	1	30			30					
		生活環境学Ⅱ	1	30				30				
		小計	3		0	0	30	60	0	0	0	0
	臨床実習 21単位	見学実習	1	45		45						
		評価実習Ⅰ	2	45			90					
		評価実習Ⅱ	2	45				90				
総合臨床実習Ⅰ		8	45					360		360		
総合臨床実習Ⅱ		8	45						360		360	
小計		21		0	45	90	90	360	360	360	360	
専門分野合計			58		0	105	450	660	450	360	450	360

総 合 計	102	3195	510	555	660	660	450	360	450	360
-------	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

※講義、演習は15～30時間で1単位。実験、実習、実技は30～45時間で1単位。

※演習を含む講義:45時間2単位。 臨床実習:45時間1単位

令和7年度

授 業 概 要

科学的思考の基盤

人間と生活

社会の理解

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
心理学		理学療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	東原 義明
授業の概要				
心理学の各領域について概説し、心理学の基礎的知識を習得する。第1回～第13回は、心理学の基礎について概説し、第14回・第15回は、国家試験過去問題を解いて全体のまとめとするとともに国家試験合格への意識付けを行う。				
授業終了時の到達目標				
心理現象のメカニズムについて理解し、身近なものや人の行動について照らし合わせて理解できる。また、心に関する様々な問題に対して、多角的な視点からの思考を持つ。				
時間外に必要な学修				
テキストを読んで、授業で説明した内容の振り返りを行う。				
回	テーマ	内 容		
1	ガイダンス 心理学とは	心理学を学ぶことの目的 心理学の各領域の紹介		
2	知覚	知覚すること、図と地、錯視、知覚の主観性 物理的環境と心理的環境		
3	学習	学習の重要性、新たな行動様式の学習メカニズム やる気と無気力		
4	動機付け	生理的動機付け、社会的動機づけ 社会的動機：達成動機づけ、内発的動機づけなど		
5	記憶	記憶のメカニズム、記憶の変容 想起時につくられる記憶、自伝的記憶、偽の記憶		
6	発達	発達とは、発達段階と発達課題 発達移行期、文化と発達期待		
7	青年	青年期とは、友情と恋愛 アイデンティティの探求、青年期の時間的展望		
8	性格 1	性格を捉える、性格の形成と変容に関する理論 性格の形成要因		
9	性格 2	性格検査（質問紙法：エゴグラム 投影法：バウムテストまたはロールシャッハ・テスト）		
10	自己	自己の二重性、客体としての自己概念 主体としての自己に迫る、物語的文脈としての自己		
11	家族	家族というシステム、家族の発達段階 家族関係の病理		
12	こころの病気と健康	こころの健康性、精神障害 思秋期・青年期の心の病理		
13	社会	対人認知、コミュニケーションと対人行動		
14	まとめ 1	国家試験過去問題の解説（心理テスト、防衛機制など）		
15	まとめ 2	国家試験過去問題の解説（エリクソンの発達課題など）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『Crosslink basic リハビリテーション テキスト 心理学・臨床心理学』株式会社 メジカルビュー社		期末試験	100%	授業内に1度は発言 する機会を設ける

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報科学		理学療法学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	廣永 大祐
授 業 の 概 要				
情報リテラシーや情報モラルの重要性を理解するとともに、一般情報のデジタル化、さらにデジタル化された情報をIT（Information Technology）を使って有効な形態に加工し活用する技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
業務上のレポート作成、データ集計資料作成、Web上での情報検索、プレゼンテーション資料作成など情報活用技術全般の基礎を習得する。さらにオンライン通信や文献検索の方法を身につける。				
時間外に必要な学修				
授業の復習を行い自習すること。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション		授業内容の紹介、ITの説明など	
2	Wordの基礎知識 文字の入力		ミカタイプの使い方、タイピング練習、文字入力の練習と確認、IMEについて	
3	文書の作成		ページ設定、文章を入力、あいさつ文の挿入、記書きの入力	
4	文書の作成		範囲を選択、文字を削除・挿入、文字をコピー・移動、文字の配置、インデント、段落番号、フォントの設定、上書き保存、印刷	
5	文書の編集		均等割り付け、囲い文字、ルビ、文字の効果、書式のコピー・貼り付け、行間、タブとリーダー、段組みの設定	
6	表現力をアップする機能 Excelの基礎知識		テーマを適用、ワードアートを挿入、ワードアートのサイズ変更と移動、画像の挿入、図形を作成、アイコンの挿入、ページ罫線を設定	
7	Excelの基礎知識 データの入力、表の作成		Excelの起動、EXCELのが画面構成、エクセルの表示モード、シートの挿入、切り替え、削除、データの入力、数式の入力と再計算	
8	数式の入力 表の印刷		データの編集、セル範囲を選択、ブックを上書き保存、印刷、オートフィルを利用	
9	表の作成		関数を入力、罫線や塗りつぶし、表示形式、配置、文字の書式、列の幅や行の高さを設定、行を削除・挿入、列の非表示・再表示	
10	PowerPointの基礎知識 基本的なプレゼンテーションの作成		PowerPointの基礎知識、PowerPointの画面構成、新しいプレゼンテーションを作成、プレースホルダを操作、新しいスライドを挿入、箇条書きテキストを入力、文字や段落に書式を設定、プレゼンテーションの構成を変更、スライドショーを実行、保存	
11	表の作成 グラフの作成		表の作成、行列を操作、表に書式を設定、名前を付けて保存、グラフの作成、グラフのレイアウトの変更、グラフに書式を設定、グラフのもとになるデータを修正	
12	図形やSmartArtグラフィックの作成 ワードアートの挿入		図形を作成、図形に書式を設定、SmartArtグラフィックを作成、SmartArtグラフィックに書式を設定、箇条書きテキストをSmartArtグラフィックに変換、名前を付けて保存、画像、アイコン、ワードアートを挿入	
13	グーグルの機能を使用する		クラスルームやドライブの説明と使用。	
14	文献検索を行う		メディカルオンラインの紹介とキーワードから調べる方法。	
15	特殊効果の設定 プレゼンテーションをサポートする機能		アニメーション、画面の切り替えの効果を設定、印刷レイアウト、スライドを効率的に切り替、スライドショーを実行	
教科書・教材			評価基準	評価率
よくわかる Word 2021 基礎 (POM出版)			課題・レポート	100%
よくわかる Excel 2021 基礎				
よくわかる Power Point 2021 基礎				
			その他	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生化学		理学療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	宇山 徹・佐々木 すみれ
授 業 の 概 要				
生物は絶えず何かしらの反応を生体内で行っており、そこには多様な分子が関与している。生化学の授業では、生体内での生命現象を分子レベル、つまりタンパク質や遺伝子がどのように制御されているのかを学ぶ事を目的とする。また、糖質、脂質やビタミンなどの分子についても理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
生化学の授業の内容に沿った試験を行うことで、個人の生化学の授業の理解度を高める。				
時間外に必要な学修				
前回配布の資料を読み直すこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	細胞の構造	細胞の基本骨格である細胞膜や核などの構造について学ぶ		
2	細胞骨格	細胞の構造を維持している細胞内タンパク質などについて学ぶ		
3	細胞の増殖、死およびアミノ酸の性質	細胞の増殖や死がどのように制御されているかを学ぶ また、タンパク質を構成しているアミノ酸についても学ぶ		
4	たんぱく質の構造、核酸、糖類について	タンパク質の基本構造、DNAを構成している核酸、グルコースなどに代表される糖質について学ぶ		
5	核酸、糖質、脂質について	核酸、糖質、脂質の構造や機能などについて学ぶ		
6	脂質、酵素、ビタミンについて	脂質やビタミンについて学ぶ また、生体内での反応を触媒する酵素について学ぶ		
7	酵素、ビタミン、ホルモンについて	酵素、ビタミン、内分泌に関わるホルモンについて学ぶ		
8	ホルモン、輸送たんぱく質、受容体について	ホルモン、物質の輸送に関わる輸送タンパク質、細胞外からの刺激を細胞内へと伝達する受容体などについて学ぶ		
9	受容体たんぱく質、防御たんぱく質（免疫）について	受容体タンパク質、免疫や生体防御に関わる防御タンパク質について学ぶ		
10	防御たんぱく質、構造たんぱく質について	防御タンパク質、細胞-細胞間を構成する細胞外マトリックスなどに存在する構造タンパク質について学ぶ		
11	遺伝子の構造、DNAの複製	遺伝子やDNAの意味、細胞分裂時にDNAが複製される機構について学ぶ		
12	DNAの複製、染色体、細胞分裂について	DNAの複製、染色体の構造と細胞分裂との関係などについて学ぶ		
13	転写、翻訳、細胞分裂について	遺伝子からRNAが転写される機構について学ぶ		
14	たんぱく質への翻訳	RNAからタンパク質がどのように翻訳されるかについて学ぶ		
15	今までの講義の演習問題	今まで行ってきた講義内容に関連する選択問題や記述問題を実施する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
はじめの一步イラスト生化学・分子生物学（羊土社）		期末試験	100%	ノートの整理や資料の見直しなど復習必須

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
統計学		理学療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	菅原 健太郎
授 業 の 概 要				
臨床や研究に必要な統計知識を身に付ける。				
授業終了時の到達目標				
統計学の知識を有した状態で論文抄読が可能となり、自身も統計学を利用してデータ分析ができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 学会発表経験を活かし、姿勢や動作分析をイメージしやすく授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
前回配布の資料を読み直すこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	統計学の基礎		統計解析の戦略と統計処理法	
2	データの尺度・特性値・グラフ		データの尺度	
3	推定と検定の基礎		推定と検定	
4	2標本の差の検定 パラメトリック法（1）		差の検定	
5	1標本の差の検定 パラメトリック法（2）		1標本の差の検定	
6	差の検定		ノンパラメトリック法の適用	
7	相関		相関の概略	
8	回帰分析		回帰分析の概略	
9	重回帰分析		重回帰分析の概略	
10	分割表の検定		分割表の概略	
11	一元配置分散分析		一元配置分散分析の概略	
12	反復測定分散分析		反復測定分散分析の概略	
13	信頼性係数		信頼性	
14	多重ロジスティック回帰分析		多重ロジスティック回帰分析の概略	
15	診断の指標		アウトカム	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・リハビリテーション統計学（中山書店） ・トレーニング指導者テキスト【実践編】 3訂版（大修館書店）		期末試験	100%	研究論につなげる よう学習すること。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
物理学		理学療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	村上 匡司
授 業 の 概 要				
・ 理学療法の内容と物理学との知識を融合する。 ・ 国家試験問題が読解できるレベルまでの物理学基礎を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 身体特性の概要が理解でき、物理的な考えができる。 ・ 国家試験が解ける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
基礎物理程度の予習。				
回	テ ー マ		内 容	
1	バイオメカニクスの基礎理論		物体の運動と記述、力学の基礎（並進運動と回転運動、運動の法則、運動量と力積、慣性モーメントと角運動量、テコの種類、仕事とエネルギー、パワー）	
2	物理学概要①		歩行速度を測ってみよう！ 正しい測り方を考え実践、数値を正確に出す練習	
3	物理学概要②		バランス評価を体験してみよう！ FRT（functional reach test）を調べて考え実践	
4	物理学概要③		単位や計算方法を理解しよう！ 単位について、有効数字について、国家試験問題解説	
5	直線運動①		物理の基本を理解しよう！① 等速度運動、等加速直線運動について	
6	直線運動②		物理の基本を理解しよう！② 公式を使って問題が解ける、国家試験問題解説	
7	水平投射について		物理の基本を理解しよう！③ 水平投射について	
8	斜方投射について		物理の基本を理解しよう！④ ベクトルについて、斜方投射について	
9	物体の運動と力との関係		体の動きと物理との関係を模索！ 運動の三原則、椅子からの立ち上がりについて	
10	モーメント①		国家試験問題が解けるまで！① 斜面上での運動、モーメントの定義	
11	モーメント②		国家試験問題が解けるまで！② モーメントの理解、国家試験問題解説	
12	モーメント③		国家試験問題が解けるまで！③ 国家試験問題解説	
13	圧力と水圧、浮力について		心地の良い姿勢をつくろう！ 圧力の基本、水圧と浮力、国家試験問題解説	
14	仕事とエネルギーについて		体の動かし方（減量にも応用？）！ 仕事の定義、国家試験問題解説、力学エネルギー	
15	熱エネルギーについて		温熱療法の概要を理解しよう！ 熱の基本的性質、体積と圧力との関係、比熱	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ まるわかり！基礎物理（南山堂） ・ トレーニング指導者テキスト【理論編】3訂版（大修館書店）		実習・実技評価（発表） 期末試験	50% 50%	グループで学習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
健康科学		理学療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中嶋 志保
授 業 の 概 要				
「健康」の視点から現代社会の抱える問題と生涯にわたる運動の必要性を理解する。				
授業終了時の到達目標				
・健康に影響を与える因子を説明することができる。 ・ライフステージにおける健康課題を挙げることができる。 ・健康や体力増進に果たす運動の効果について理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修				
事前にテキストの該当範囲を読み予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	現代の健康観と健康問題概観		健康の定義、現代の健康問題 健康問題の発生要因、平均寿命と健康寿命	
2	心身と健康		健康診断の意義、遺伝と健康 心の健康・不健康とは、薬物依存	
3	環境と健康		環境と健康の関係 物理的環境・生物的環境・社会的環境と健康	
4	栄養と健康		肥満と痩せ、家族構成と栄養 高齢社会と栄養	
5	生活習慣と健康①		糖尿病、高血圧、脂質異常症	
6	生活習慣と健康②		喫煙・アルコール・睡眠・休養と健康、口腔と健康	
7	運動と健康		安静の弊害、生活習慣病に対する運動の効果 運動による障害	
8	世代と健康①		児童・生徒・学生の健康、学校における健康教育 働く人々の健康	
9	世代と健康②		高齢者の健康 ライフステージと生涯スポーツ	
10	特別な対象のためのトレーニングプログラム①		高齢者の特性とアセスメント、高齢者のトレーニングの実際	
11	特別な対象のためのトレーニングプログラム②		発達段階に応じたトレーニングの重要性、子供に対するトレーニングの実際	
12	特別な対象のためのトレーニングプログラム③		トレーニングに影響する女性の特徴、女性特有の問題と対応、障がい者に対するトレーニング	
13	トレーニング指導者の役割		トレーニング指導者とは、指導者に対するニーズ、指導者の役割と業務、競技スポーツ分野における状況に応じた活動、指導者が身につけるべき能力、指導者に求められる資質・行動と倫理	
14	災害と健康 新たな健康問題		災害の種類や場所と健康問題	
15	健康を守る社会の仕組み		環境整備と健康づくり施策	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・テキスト健康科学 第3版（南江堂） ・トレーニング指導者テキスト【実践編】3訂版（大修館書店）		感想文・レポート	100%	日頃から健康に関する情報に意識してふれましょう。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
医学英語		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
理学療法士の臨床業務で使用頻度の高い医学英語について、「意味を理解する」「スペルを正確に書ける」「医療職の共通言語として使用できる」ことを目指す。				
授業終了時の到達目標				
・ 理学療法士が臨床業務で使用する基本的な医学英語を使用することができる。 ・ カルテや文献に書かれている医学英語を理解することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修				
文献や論文に出てくる医学英語をその都度調べることを習慣づける。				
回	テ ー マ		内 容	
1	【語彙】人体の基礎知識① 【会話】挨拶		・ 人体の区分。位置についての英単語を学ぶ。 ・ 初回の挨拶	
2	【語彙】人体の基礎知識② 【会話】問診		・ 頭部・顔面・上肢・下肢のパーツの英単語を学ぶ。 ・ 痛みの部位、種類、経緯を聞く	
3	【語彙】人体の基礎知識③ 【会話】肢位設定		・ 関節の運動方向・肢位を学ぶ。 ・ 基本的肢位の指示、応用的な肢位の指示	
4	【語彙】人体の構造① 【会話】評価①		・ 主要な骨・関節の名称の英単語を学ぶ。 ・ バイタルサインの確認	
5	【語彙】人体の構造② 【会話】評価②		・ 主要な上肢・下肢・体幹の筋名を学ぶ。 ・ 自動可動域、他動可動域の測定	
6	【語彙】人体の構造③ 【会話】評価③		・ 関節の運動方向を英語で学ぶ。 ・ 体幹と頸部の可動域の測定	
7	【語彙】人体の構造④ 【会話】評価④		・ 内臓器・脳神経の名称を英語で学ぶ。 ・ 筋力測定、感覚検査	
8	【語彙】医療の略語 【会話】評価⑤		・ カルテに記載されている略語の意味と使い方 ・ バランス検査、歩行評価	
9	【語彙】症候・徴候① 【会話】治療①		・ 一般的な症候・徴候を学ぶ。 ・ ホームエクササイズの指導	
10	【語彙】症候・徴候② 【会話】治療②		・ 脳・内臓器の症候・徴候を学ぶ。 ・ RICE処置の指導	
11	【語彙】疾病・創傷① 【会話】ADL①		・ 骨・筋・関節の痛みについて学ぶ。 ・ 移乗動作の指導	
12	【語彙】疾病・創傷② 【会話】ADL②		・ 脳・内臓器の疾病・創傷を学ぶ。 ・ 食事の評価と指導	
13	【語彙】介護・医療機器 【会話】環境整備		・ 車椅子・歩行補助用具・ベッド ・ 適切な歩行補助用具の選択、自宅トイレの改修	
14	【語彙】診察・治療と療法・薬剤 【会話】退院指導		・ 一般的な検査、治療と療法、リハに関連する薬剤 ・ 退院後の生活指導	
15	まとめ・確認テスト		まとめ・復習・知識の定着	
教科書・教材			評価基準	評価率
PT・OTが書いた「リハビリテーション英会話（メジカルビュー社）」			期末試験	100%
				発音、会話練習は積極的に声を出す

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間育成学Ⅰ		理学療法学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	中嶋 志保
授 業 の 概 要				
・医療人としての人間性、資質を培う。 ・問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。 ・理学療法評価の一部を経験し、基礎知識の必要性を意識する。				
授業終了時の到達目標				
・医療人としての資質、人間性、社会的マナーを習得する。 ・理学療法評価に必要な解剖学、運動学の知識が定着する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 問題解決のための自己学習プロセスを教示し、情報共有についても言及する。			
時間外に必要な学修				
授業と並行して進む解剖学や運動学をその都度復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション		科目のねらい、到達目標について	
2	骨の名称（上肢）		課題の提示 グループ内レクチャー	
3	骨の名称（下肢）		グループ内レクチャー	
4	形態測定（上下肢）		課題の提示 グループ内レクチャー	
5	関節の名称（上肢）		課題の提示 グループ内レクチャー	
6	関節の名称（下肢）		課題の提示 グループ内レクチャー	
7	リハセンター見学①		福祉センター施設見学	
8	リハセンター見学②		脳卒中片麻痺患者様の話を伺う	
9	リハセンター見学③		両下腿切断患者様の話を伺う	
10	関節の動き・可動域テスト（上肢）		課題の提示 グループ内レクチャー	
11	関節の動き・可動域テスト（下肢）		グループ内レクチャー	
12	歩行周期と関節角度①		課題の提示 グループ内レクチャー	
13	歩行周期と関節角度②		グループ内レクチャー	
14	職業理解		課題の提示 グループ内レクチャー	
15	まとめ		まとめ	
教科書・教材			評価基準	評価率
・リハビリテーション職種のキャリアデザイン（シービーアール） ・配布資料			期末試験 課題・レポート	70% 30%
				2年生と積極的にコミュニケーションをとりましょう

人体の構造と機能及び 心身の発達

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖運動学Ⅰ		理学療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中嶋 志保
授 業 の 概 要				
身体を構成する各関節の機能解剖及び正常な関節運動メカニズムについて学修し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を身につける。				
授業終了時の到達目標				
・筋の収縮機序について説明できる。 ・主要な関節について関節構成体の構造と機能を理解する。 ・関節運動について、解剖学及び運動学で学んだ専門用語を用いて説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 正常運動理論を臨床でどのように活用するかを交えながら授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
体表面解剖学の内容と併せて復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	骨格概要		授業ガイダンス 骨格を構成する骨の名称	
2	骨の構造		骨の役割と分類 骨の基本構造	
3	関節の構造と機能		関節の名称、関節の分類 滑膜性連結の基本構造	
4	関節運動の表現		方向と位置を表す用語 運動の面と軸	
5	骨格筋の構造と機能		骨格筋の基本構造、骨格筋の収縮機序 運動単位、筋の収縮様式	
6	骨、関節、骨格筋まとめ		知識の整理	
7	上肢帯、肩関節の構造と機能①		上肢帯、肩関節総論 肩甲上腕関節の解剖学的構造と運動	
8	上肢帯、肩関節の構造と機能②		腱板の機能 肩甲胸郭関節、肩鎖関節の構造と運動	
9	上肢帯、肩関節の構造と機能③		肩複合体としてみた運動	
10	肘関節、前腕の構造と機能①		肘関節と前腕の構造	
11	肘関節、前腕の構造と機能②		肘関節の運動と筋 前腕の運動と筋	
12	手関節、手の構造と機能①		手関節の構造 手関節の運動と筋	
13	手関節、手の構造と機能②		手の構造 手の運動と筋	
14	手関節、手の構造と機能③		手固有の作用と肢位	
15	上肢帯及び上肢のまとめ		知識の整理	
教科書・教材			評価基準	評価率
PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学（羊土社）／標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野解剖学（医学書院）／トレーニング指導者テキスト【理論編】3訂版（大修館書店）			期末試験	100%
				用語は正確に覚えましょう

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖運動学Ⅱ		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中嶋 志保
授 業 の 概 要				
身体を構成する各関節の機能解剖及び正常な関節運動メカニズムについて学修し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を身につける。				
授業終了時の到達目標				
・ 主要な関節について関節構成体の構造と機能を理解する。 ・ 関節運動について、解剖学及び運動学で学んだ専門用語を用いて説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 正常運動理論を臨床でどのように活用するかを交えながら授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
体表面解剖学の内容と併せて復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	股関節の構造と機能①		下肢帯総論 アライメントと各指標	
2	股関節の構造と機能②		股関節の構造	
3	股関節の構造と機能③		股関節の運動と筋 股関節のバイオメカニクス	
4	膝関節の構造と機能①		膝関節の構造 関節包、靱帯による運動制御	
5	膝関節の構造と機能②		膝関節の運動と筋 脛骨と腓骨の連結と運動	
6	足関節、足部の構造と機能①		足関節の構造 足関節の運動と筋	
7	足関節、足部の構造と機能②		足部の構造 足部の運動と筋	
8	下肢のまとめ		知識の整理	
9	脊柱総論		脊椎、脊柱の基本構造と運動	
10	頸椎の構造と機能		頸椎の構造 頸椎の関節と運動	
11	胸椎及び胸郭の構造と機能		胸椎の構造 胸郭と呼吸運動	
12	腰椎の構造と機能		腰椎の構造 腰椎の関節と運動	
13	骨盤の構造と機能		骨盤帯の構造 骨盤帯の運動、腰椎と骨盤帯の関係	
14	頭部、顔面の構造と機能		顎関節の構造と運動 表情筋及び眼筋	
15	体軸骨格、骨盤帯のまとめ		知識の整理	
教科書・教材			評価基準	評価率
PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学（羊土社）／標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野解剖学（医学書院）／トレーニング指導者テキスト【理論編】3訂版（大修館書店）			期末試験	100%
				用語は正確に覚えましょう

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
体表面解剖学Ⅰ		理学療法学科／1年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	永田 泰仁
授 業 の 概 要				
体表面に骨や筋の位置や走行を投影し、触察できるようになる。				
授業終了時の到達目標				
上肢の骨と関節を触察できる。 上肢の筋を触察できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 治療で活用してきた触診技術を学生がイメージしやすく授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
筋を触察する上で、起始・停止・走行・作用を頭に入れて置くことが重要である。				
回	テ ー マ		内 容	
1	・ 触察のための基本技術と注意事項 ・ 肩甲骨（後面）の触察		・ 触診の基礎と技術・肩甲骨（後面）のランドマークの名称 ・ 肩甲骨（後面）の各ランドマークの触察実習	
2	・ 鎖骨の触察 ・ 上腕骨の触察		・ 鎖骨、上腕骨のランドマークの名称 ・ 鎖骨、上腕骨の各ランドマークの触察実習	
3	・ 烏口突起、上腕骨近位部の骨指標の触察		・ 烏口突起、三角筋粗面、大結節、小結節、結節間溝の触察	
4	・ 肩関節周囲筋の触察		・ 三角筋、僧帽筋（上部、中部、下部）、広背筋、大円筋の触察	
5	・ 肩回旋筋群の触察		・ 棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋の触察	
6	・ 肩甲骨の挙上・上方・下方回旋筋の触察		・ 大菱形筋、小菱形筋、肩甲挙筋、前鋸筋の触察	
7	・ 上腕骨及び肩甲骨から体幹に付着する筋の触察		・ 大胸筋（鎖骨部、胸骨部、腹部線維）、小胸筋、鎖骨下筋の触察	
8	・ 上腕部の筋群の触察		・ 上腕二頭筋（長頭・短頭）、上腕筋、烏口腕筋、上腕三頭筋の触察	
9	・ 前腕の骨指標の触察		・ 上腕骨上顆、上顆稜・尺骨の触察・橈骨の触察	
10	・ 手根骨と中手骨の触察		・ 豆状骨、三角骨、有鉤骨、舟状骨、大菱形骨、小菱形骨、有頭骨、月状骨の触察・中手骨の触察	
11	・ 前腕伸筋群の触察		・ 肘筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、尺側手根伸筋、小指伸筋、示指伸筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋の触察	
12	・ 前腕屈筋群の触察		・ 腕橈骨筋、円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋の触察	
13	・ 母指球筋の触察 ・ 小指球筋の触察		・ 母指対立筋、短母指外転筋、短母指屈筋、母指内転筋、小指外転筋、小指屈筋、小指対立筋虫様筋、掌側・背側骨間筋の作用の理解	
14	まとめ		上肢の復習	
15	まとめ		上肢の復習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院） ・ プロメテウス解剖学コアアトラス（医学書院）		期末試験	100%	定期的に確認テストを実施し習熟度を確認する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
体表面解剖学Ⅱ		理学療法学科／1年	2025／後期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中嶋 志保
授 業 の 概 要				
体表面に骨や筋の位置や走行を投影し、触察できるようになる。				
授業終了時の到達目標				
下肢・体幹の骨と関節を触察できる。 下肢・体幹の筋を触察できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 治療で活用してきた触診技術を学生がイメージしやすく授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
筋を触察する上で、起始・停止・走行・作用を頭に入れて置くことが重要である。				
回	テ ー マ	内 容		
1	・ 胸骨、肋骨の触察	・ 胸骨（胸骨柄、胸骨体、剣状突起）肋軟骨、肋骨の触察		
2	・ 脊柱起立筋群の触察	・ 棘筋、最長筋、腸肋筋、多裂筋の触察		
3	・ 頸部、後頭部の筋群の触察 ・ 腰部、腹部の筋群の触察	・ 頭板状筋、後頭筋群の触察・腰方形筋、腹直筋、内・外腹斜筋、横隔膜、肋間筋の触察		
4	・ 頭部の骨指標の触察 ・ 気管、甲状軟骨、舌骨の触察	・ 外後頭隆起、上項線、乳様突起、頬骨弓、茎状突起、下顎角、下顎枝、下顎頭、筋突起の触察・輪状軟骨、甲状軟骨、舌骨の触察		
5	・ 頭部、頸部筋群の触察 ・ 頸部の動脈と分泌腺の触察	・ 胸鎖乳突筋、斜角筋、咬筋、側頭筋、舌骨上・舌骨下筋群総頸動脈、側頭動脈、顔面動脈、耳下腺、顎下腺の触察		
6	・ 骨盤・下肢の骨指標の触察	・ 骨盤、大腿骨、下腿骨の骨指標の確認と説明		
7	・ 骨盤の骨指標の触察 ・ 大転子の触察 ・ 骨盤の靱帯の触察	・ 上前腸骨棘、下前腸骨棘、腸骨稜、腸骨窩、上後腸骨棘坐骨結節、仙骨、尾骨、恥骨、仙腸関節の触察 ・ 大転子の触察		
8	・ 大腿前面の筋群の触察	・ 内転筋群（恥骨筋、長内転筋、大内転筋、薄筋）の触察 ・ 縫工筋、大腿筋膜張筋、腸脛靱帯、大腿四頭筋の触察		
9	・ 腸骨筋、大腰筋の触察	・ 腸骨筋、大腰筋の触察		
10	・ 大腿後面の筋群の触察・後膝窩部の触察・鵞足を構成する筋群の触察	・ 大腿二頭筋、半腱・半膜様筋、膝窩筋の触察 ・ 後膝窩部の筋群の位置関係の確認・鵞足の触察		
11	・ 膝関節の骨指標と靱帯の触察 ・ 足関節と足部の骨指標と靱帯の触察	・ 膝蓋骨、脛骨体、脛骨粗面、脛骨高原、関節裂隙、腓骨頭、大内転筋結節の触察、足根骨と中足骨の触察		
12	・ 下腿後面の筋群の触察	・ 腓腹筋、足底筋、ヒラメ筋、後脛骨筋、長母趾屈筋、長趾屈筋の触察		
13	・ 足底部の筋群の触察	・ 母趾外転筋、小趾外転筋、短趾屈筋		
14	まとめ	下肢の復習		
15	まとめ	下肢の復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院） ・ プロメテウス解剖学コアアトラス（医学書院）		期末試験	100%	定期的に確認テストを実施し習熟度を確認する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖生理学Ⅰ		理学療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	横川 光代
授 業 の 概 要				
神経系（中枢神経系）の構造（つくり）及び、機能（はたらき）について教授する。				
授業終了時の到達目標				
神経系の仕組みを理解し、人間がどのように外界からの刺激を感覚として受け取り、運動しているか説明できる。又、学習・思考・判断などの高度な働きの仕組みについて説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実践を通して身につく授業を展開する。			
時間外に必要な学修				
授業中に提示される重要ポイントおよびキーワードの復習をすること。				
回	テ ー マ	内 容		
1	神経細胞の基本構造について	・ 中枢神経系、末梢神経系の神経細胞の基本構造 ・ 神経細胞体、軸索、髄鞘などについて		
2	中枢神経系の位置関係 大脳半球（脳葉）の位置関係と機能	・ 大脳から脊髄までの中枢神経系の位置関係 ・ 大脳半球の脳葉、脳室等の位置関係		
3	大脳皮質と髄質の構造	・ 大脳皮質、髄質、脳膜 ・ 髄質の神経線維（連合線維、交連線維など）		
4	大脳皮質の区分と機能	・ 各皮質の区分と基本的な機能、脳回と脳溝 ・ Brodmannの脳地図		
5	大脳基底核の解剖と働き	・ 大脳基底核の基本構造 ・ 大脳基底核と不随意運動		
6	間脳・脳幹の解剖と働き	・ 間脳の構造と機能 ・ 脳幹の構造と機能		
7	小脳の解剖と働き	・ 小脳の部位による機能の違い ・ 各小脳皮質の役割、小脳核、小脳脚		
8	前半のまとめ	・ 大脳から脳幹までの復習		
9	脊髄の解剖と働き①	・ 灰白質と白質 ・ 脊髄の横断面（索路分布等）		
10	脊髄の解剖と働き②	・ 髄節について ・ 高位別機能（Dermatome）		
11	伝導路①	・ 上行性伝導路と下行性伝導路の違い		
12	伝導路②	・ 錐体路の解剖について ・ 皮質（運動野）－錐体路－筋収縮まで		
13	伝導路③	・ 感覚の伝導路 ・ 感覚受容器－伝導路－皮質（感覚野）まで		
14	反射の仕組み	・ 伸張反射の経路 ・ 反射の意味		
15	まとめ	・ 後半のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 ・ Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学		期末試験 中間試験	50% 50%	今後全ての授業において、必要な知識です。毎回、復習しましょう。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
解剖生理学Ⅱ		理学療法学科／1年	2025／後期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮内 貴志子	
授 業 の 概 要					
神経系（中枢神経系および末梢神経系）の構造（つくり）および機能（はたらき）について教授する。					
授業終了時の到達目標					
神経系の仕組みを理解し、人間が外界の刺激を感じ、運動する仕組みが説明できる。					
実務経験有無	実務経験内容				
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。				
時間外に必要な学修					
授業中に提示される重要ポイントおよびキーワードの復習をすること					
回	テ ー マ		内 容		
1	脳・脊髄から末梢神経の構造		中枢神経から末梢神経系へ		
2	脳・脊髄の循環系		栄養動脈と静脈の構造と機能		
3	脊髄神経の構造		末梢神経系の構造と機能 伝導路の振り返り		
4	脊髄神経系		上肢の運動（頸神経叢と腕神経叢の構造）		
5	脊髄神経系		下肢の運動（大腿神経叢と仙骨神経叢）		
6	上下肢の運動		運動野から伝導路 脊髄神経系 神経筋接合部		
7	上下肢の感覚		感覚受容器と中枢神経とのつながり		
8	自律神経系		構造と機能（交感神経と副交感神経）		
9	自律神経系		構造と機能（交感神経と副交感神経）		
10	脳神経系		脳神経の構造		
11	脳神経系		各脳神経の機能		
12	脳神経系		特殊感覚（嗅覚・視覚・味覚）		
13	脳神経系		特殊感覚（聴覚・平衡感覚）		
14	脳神経系		眼の運動 表情筋 咀嚼筋 嚥下に関する脳神経系		
15	神経系のまとめ		まとめと振り返り		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）／リハビリテーションテキスト 生理学（メディカルビュー社／トレーニング指導者テキスト【理論編】3訂版（大修館書店）			期末試験	100%	欠席しないよう気を付ける 復習の習慣をつける

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖生理学Ⅲ		理学療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
恒常性を保つための、各臓器の役割を説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 理学療法との接点を交えながら授業を展開する。			
時間外に必要な学習				
その日のうちに授業資料と教科書を見直す。資料をファイリングする。				
回	テ ー マ		内 容	
1	内臓器の位置と役割		各臓器の位置関係と機能を	
2	血液と体液		血液の成分と赤血球の働き 体液とは	
3	血液の機能		白血球と血小板の働き	
4	細胞と血液・体液		血漿の機能 細胞	
5	循環器系の構造と機能		心臓と血管の構造 心臓の機能	
6	循環器系の構造と機能		刺激伝導系と心筋④動き	
7	循環器系の構造と機能		血圧調節について	
8	循環器系の構造と機能		全身をめぐる動脈と静脈① 大循環と小循環	
9	循環器系の構造と機能		全身をめぐる動脈と静脈② 腹部と脳 臓器循環	
10	循環器系の構造と機能		静脈還流量の調節 リンパ管の構造と役割	
11	呼吸器系の構造と機能		上気道と下気道 肺葉 肺区域 肺胞	
12	呼吸器系の構造と機能		吸息と呼息運動 呼吸筋について 呼吸調節中枢	
13	呼吸器系の構造と機能		肺に出入りする換気量について	
14	呼吸器系の構造と機能		肺におけるガス交換と血液によるガス交換の仕組み 外呼吸と内呼吸	
15	呼吸と循環のまとめ		振り返り	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）／リハビリテーションテキスト 生理学（メディカルビュー社		期末試験	100%	欠席しないように 気を付ける 積み残しのないよう に復習すること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖生理学Ⅳ		理学療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
恒常性を保つための、各臓器の役割を説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 理学療法との接点を交えながら授業を展開する。			
時間外に必要な学習				
その日のうちに授業資料と教科書を見直す。資料をファイリングする。				
回	テ ー マ		内 容	
1	消化器系の構造と機能		口腔から肛門までの構造	
2	消化器系の構造と機能		咀嚼と嚥下機能 発声	
3	消化器系の構造と機能		消化と吸収 胃における食物貯蔵と輸送	
4	消化器系の構造と機能		消化と吸収 小腸・大腸の機能	
5	消化器系の構造と機能		消化と吸収 肝臓・胆のう。膵臓の機能	
6	消化器系の構造と機能		大腸と肛門の構造 排便反射について	
7	消化器系の構造と機能		消化吸収と栄養の合成	
8	泌尿器系の解剖と機能		腎臓と尿管・膀胱の構造と機能	
9	泌尿器系の解剖と機能		尿の生成と排泄 蓄尿と排尿反射	
10	酸塩基平衡について		肺と腎臓の関係 酸塩基平衡について	
11	生殖器系の構造と機能		男性と女性の生殖器系の構造と機能	
12	発生 胎児の成長		発生 受精から出産まで 胎児の成長と胎児循環	
13	内分泌系の構造と機能		ホルモンの役割 外分泌と内分泌	
14	内分泌系の構造と機能		ホルモンの種類と働き	
15	体温と代謝		体温調節、熱の産生と放散 エネルギー代謝と物質代謝	
教科書・教材		評価基準		評価率
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院） リハビリテーションテキスト 生理学 （メディカルビュー社		期末試験		100%
				その他
				欠席しないように 気を付ける 積み残しのないよ うに復習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生理学演習		理学療法学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	村上 匡司
授 業 の 概 要				
理学療法の基礎となる生理学的知識を、理論から実際の生体反応へ結びつける。演習を通じて、各種測定技術を習得し、臨床現場で即応できるスキルを身につける。				
授業終了時の到達目標				
・ 生理学的知識をもとに、理論と実際の生体反応とを関連付けて理解できる。 ・ 臨床現場で活用できる生理学的検査測定 of 技術を習得することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。			
時間外に必要な学修				
生理学の復習。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション		ガイダンス	
2	演習計画作成①		第5回～8回までの内容について、解剖生理学的知識の復習、計測方法の具体化（4グループ）	
3	演習計画作成②		第5回～8回までの内容について、解剖生理学的知識の復習、計測方法の具体化（4グループ）	
4	演習計画作成③		演習計画書作成	
5	血圧と心拍数の測定		触診法から聴診法へ、心拍数は体表での触知と聴診器を用いた計測、心尖拍動まで	
6	心電図の計測		心臓の電気活動を心電図を通して理解する	
7	呼吸数の測定と酸素飽和度		触診による計測から聴診器を用いた呼吸数の測定、パルスオキシメーターによる酸素飽和度の測定	
8	スパイロメトリー		努力性肺活量、1秒率などを計測	
9	演習計画作成①		第12回～15回までの内容について、解剖生理学的知識の復習、計測方法の具体化（4グループ）	
10	演習計画作成②		第12回～15回までの内容について、解剖生理学的知識の復習、計測方法の具体化（4グループ）	
11	演習計画作成③		演習計画書作成	
12	深部腱反射、病的反射		各反射検査と、それからわかる所見について	
13	神経伝導検査		機器を用いた神経伝導速度の測定	
14	表面筋電図		筋肉の電気活動を測定、運動や姿勢との同期を考察する	
15	ハンドヘルドダイナモメーター		徒手筋力測定器を用いて筋力の数値化や疲労度を評価する	
教科書・教材		評価基準		評価率 その他
		期末試験 レポート		50% 50% 機器の操作方法については事前に予習をしておくこと

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間発達学		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
胎児期から新生児期、乳児期、学童期から青年期、老年期に至るまでの、身体的な成長・発達および精神的な発達を学び、それぞれの時期の発達の特徴を理解する。また、成長・発達に関係する因子と発達理論および発達評価法の概略を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 発達的一般原則、発達理論の概略を理解する。 ・ 発育・発達関係する因子を説明でき、発育・発達に与える影響と理論を理解する。 ・ 新生児期に必要な原始反射と立ち直り反応・平衡反応が説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験 胎児期からの発達をイメージしやすいように展開する。		
時間外に必要な学修				
生涯発達に興味を持ちテキストを読み返してください。				
回	テ ー マ		内 容	
1	人間発達学総論		人間発達とは 発達にみられる諸原則	
2	胎児期について		発達段階と課題について（総論） 胎児期の子宮環境について	
3	出産と新生児期について		出生に伴う呼吸や心臓機能の変化 胎児循環と肺呼吸	
4	乳児期の発達（0から3か月頃）		哺乳と原始反射 姿勢の変化と身体機能	
5	乳児期の発達（3から6か月頃）		乳児期の姿勢と定頸・寝返りの獲得 姿勢変化と立ち直り反応の出現	
6	乳児期の発達（7から9か月頃）		座位保持・四つ這い・腹ばいの獲得	
7	乳児期の発達（10から12か月頃）		歩行の獲得 平衡反応の充実	
8	原始反射と姿勢反射・平衡反応総論		脳の発達と原始反射・立ち直り反応・平衡反応の出現	
9	幼児期前半の発達課題		幼児期の遊びと学習 家庭内での学習	
10	幼児期の発達評価		幼児期の発達スクリーニング評価	
11	幼児期後半の発達		目と手の協調性 食事と嚥下機能（哺乳から自己摂食）	
12	学童期の発達		集団での学習と発達	
13	青年期の発達		自己同一性の獲得	
14	成人期の発達		親世代の発達と役割について	
15	老年期の発達 まとめ		総括と重要ポイント復習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる人間発達（医歯薬出版）		期末試験 確認テスト	90% 10%	能動的な姿勢で臨む事

疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床心理学		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	福田 琴
授業の概要				
- 臨床心理分野の疾患の理解。 - 各疾患の治療法を学ぶ。 - 自分たちの職種が出来る範囲のことを知る。				
授業終了時の到達目標				
- 臨床心理分野の疾患を理解する。 - 各疾患の治療法を理解する。 - 自分たちの職種で出来る各疾患の治療を学ぶと共に、自分で考える。				
時間外に必要な学修				
授業前に教科書、配布資料を確認しておくこと。				
回	テーマ	内 容		
1	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史 各種心理テストの概略 など		
2	神経症 1（不安障害）	不安障害の種類 強迫性障害とパニック障害に対する暴露療法 など		
3	神経症 2（身体表現性障害）	転換性障害のメカニズム 心気症と心身症の違い など		
4	神経症 3（解離性障害） 適応障害	解離性障害の防衛メカニズム 離人症性障害の症状 など		
5	人格障害 1	各クラスターに属するパーソナリティ障害 など		
6	人格障害 2	パーソナリティ障害の合併 クラスターC（回避性パーソナリティ障害など）		
7	摂食障害 統合失調症について	神経性無食欲症、過食発作 統合失調症の概念、歴史、下位分類		
8	依存症 気分障害について	依存症の種類、依存と乱用の違い 双極性障害と大うつ病の違い、認知行動療法		
9	てんかん 睡眠障害 性障害について	てんかんの原因、発作の種類、脳波の特徴 睡眠・覚醒リズム障害の概要、性障害の分類		
10	子供の精神障害とその周辺について 1	精神遅滞と知能指数の関係、学習障害の種類 注意欠陥・多動性障害の原因と症状		
11	子供の精神障害とその周辺について 2	社会問題となった子供の異常の数々を知る。 児童虐待について		
12	老化とその障害 リラクゼーションについて	アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い 各種リラクゼーション法の概要		
13	精神療法 力動精神療法	フロイト精神分析、家族療法、集団療法 力動精神療法の流れ、自我心理学の概要		
14	認知行動療法 支持療法	認知行動療法の概要、ベックの方法論 支持療法の歴史、心理療法的アプローチ		
15	薬物療法 セルフアセスメント	薬物の種類と副作用、脳内ホルモンの働き 臨床心理学全体の総括		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学（医学書院）		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
老年学		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮内 貴志子
授 業 の 概 要				
・ 身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深めていく。 ・ 老化にともなって生じる障害や病態について理解を深める。 ・ 高齢障害者における理学療法士の役割を考える。				
授業終了時の到達目標				
・ 老化についてのメカニズムを理解する ・ 老年期の身体的変化、精神的変化を理解する。 ・ 高齢者に特有な疾病について理解を深める。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の経験			
時間外に必要な学修				
・ 次回の内容を確認し、テキストを準備し内容を確認し予習する。 ・ 重要ポイントをテキストを通じて復習する。 ・ 高齢化社会についてニュースを通じて関心を持つ。				
回	テ ー マ	内 容		
1	老化と老年病の考え方	・ 老年学の概要・高齢者とは・加齢と老化について		
2	加齢に伴う変化：生理機能	・ 運動機能、感覚機能、平衡機能の低下		
3	加齢に伴う変化：運動機能	・ 生理的機能低下（呼吸・循環・代謝など）		
4	加齢に伴う変化：精神心理面	・ 知能や精神機能の低下		
5	高齢者の健康寿命	・ 介護予防・サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム		
6	老年症候群①	・ 老年症候群と生活機能障害 ・ 老年症候群と評価方法について		
7	老年症候群②	・ 健忘と認知症・うつ症状		
8	老年症候群③	・ 認知症の症状と対応		
9	老年症候群④	・ 運動器機能障害		
10	老年症候群⑤	・ 姿勢の異常と転倒・転倒予防		
11	寝たきり予防	・ 長期臥床と寝たきり・二次的合併症の症状と予防		
12	症例検討	・ 在宅での長期療養患者の介護と理学療法		
13	嚥下機能と誤嚥性肺炎	・ 正常な嚥下機能		
14	誤嚥性肺炎と予防	・ 誤嚥性肺炎の原因と予防		
15	認知症サポーター研修	高松市保健センター職員による研修会		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 配布資料 ・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学（医学書院）		期末試験	100%	生理学、病理学の教科書や資料を参照

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
病理学		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	坂口 千恵美
授 業 の 概 要				
医学一般について幅広く知識を求めていく学問であり、疾患を理解するための基本的な用語を理解する。また病理学の一端を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 基本的な専門用語とその意味や定義などを理解する。 ・ 病理学の国試問題を解ける知識を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	理学療法士として5年以上の経験			
時間外に必要な学修				
生化学、解剖生理学の復習				
回	テ ー マ		内 容	
1	病因論1		外因：物理的要因 ・ 科学的要因 ・ 栄養障害 ・ 生物学的要因 ／ 内因：年齢、性差、人種地域 ・ 染色体・遺伝子異常	
2	退行性病変・進行性病変 1		退行性病変：変性 ・ 萎縮 ・ 細胞死	
3	退行性病変・進行性病変 2		進行性病変：肥大と過形成 ・ 化生 ・ 異形成 ・ 再生と創傷治癒	
4	創傷治癒・骨折治癒過程		創傷治癒について 骨折治癒過程について	
5	循環障害		体液循環の機構、局所の循環障害（充血とうっ血、浮腫、出血、血栓症、塞栓症、虚血と梗塞）	
6	循環障害 2		浮腫（水腫）、全身の循環障害（高血圧・肺高血圧症・門脈循環・低血圧症）	
7	感染症		感染症とは、感染症の成立、微生物の感染経路・様式	
8	免疫 1		免疫の概念免疫の成立	
9	免疫 2・アレルギー		アレルギー・免疫反応がもたらす障害・疾患 移植・血液の不適合	
10	炎症 1		炎症とは、炎症の原因、体液性因子、炎症の経時的変化	
11	炎症 2		炎症の種類、炎症の全身への影響、炎症の転帰	
12	代謝異常1		糖質代謝異常、蛋白質代謝異常	
13	代謝異常2		脂質代謝異常、その他の代謝異常	
14	腫瘍		良性腫瘍、悪性腫瘍	
15	まとめ		知識の定着の確認。 期末試験対策	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 配布資料		期末試験	100%	毎回課題を出題する

保健医療福祉と リハビリテーションの理念

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
リハビリテーション 医学概論		理学療法学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	植野 英一
授 業 の 概 要				
・ リハビリテーション医学の本質を探究しながら、リハビリテーション医療の状況把握と今後の発展性について学ぶ。 ・ 多職種連携、チームアプローチの重要性について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ リハビリテーション医療に従事する専門職として、リハビリテーションの理念と今後の発展性について説明できる。 ・ 他職種連携、チームアプローチの重要性を説明できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	作業療法士として5年以上の実務経験			
時間外に必要な学修				
事前学習（教科書を読む）の励行				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション リハビリテーションの理念	・ 授業概要 ・ リハビリテーションという言葉と定義 ほか		
2	リハビリテーションの対象と障害者の実態	・ 医学的リハビリテーションの対象 ・ 障がい者・障がい児の実態 ほか		
3	障害の階層とアプローチ	・ ICFについて ・ 病気と障害の相違 ほか		
4	リハビリテーション評価学	・ 障害の評価 ・ 身体所見 ほか		
5	リハビリテーション治療学	・ 心理的アプローチ ・ 廃用症候群 ほか		
6	ライフステージにおける障害特性 高齢者のリハビリテーション	・ ライフサイクル、障害児の特性 ほか ・ サルコペニアとフレイル、老年症候群 ほか		
7	脳損傷のリハビリテーション	・ 脳卒中、脳外傷、低酸素脳症との比較		
8	脊髄損傷のリハビリテーション	・ 脊髄損傷の原因と損傷のタイプ ・ 機能障害と活動制限およびそれらへのアプローチ		
9	神経筋疾患のリハビリテーション	・ パーキンソン病、SCD、MSなどのリハビリテーション		
10	運動器疾患のリハビリテーション	・ 変形性関節症や関節リウマチなどのリハビリテーション		
11	呼吸器疾患のリハビリテーション 心血管系のリハビリテーション	・ 肺炎、慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション ・ 心不全、虚血性心疾患のリハビリテーション		
12	肢体不自由児のリハビリテーション 発達障害のリハビリテーション	・ 脳性麻痺、筋ジストロフィー ほか ・ 自閉症スペクトラム、注意欠如・多動性障害 ほか		
13	がんのリハビリテーション 災害医療とリハビリテーション	・ がんのリハビリテーションの特徴 ほか ・ 被災者に接する7つのポイント ほか		
14	精神障害のリハビリテーション	・ うつ病など精神障害の基礎事項 ・ 精神障害のリハビリテーションの概要		
15	まとめ	・ 知識整理 ・ 国家試験問題演習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
学生のためのリハビリテーション医学概論 （医歯薬出版）		期末試験 （14回分の習熟度）	100%	授業で使われた語句の意味を復習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法概論		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	中嶋 志保
授 業 の 概 要				
・ 理学療法の歴史と発展の背景、現状を把握し、今後の発展性について学ぶ。 ・ 理学療法士の使命と倫理を法的根拠を基に理解し、理学療法士に求められる資質を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・ 理学療法の概要、魅力、可能性について説明することができる。 ・ 理学療法士に求められる人間像をイメージする。 ・ 自分の目指す理学療法士像を説明できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った経験を盛り込み教授する。			
時間外に必要な学修				
授業で提示された用語をインターネット等で検索し理解を深める。				
回	テ ー マ	内 容		
1	理学療法とは	・ 理学療法の定義 ・ 諸外国の理学療法 ・ 世界理学療法連盟と日本理学療法士協会の理念		
2	理学療法を構成する技術概要	・ 理学療法の構成 ・ 運動療法と物理療法 ・ 補装具療法		
3	理学療法士に関する法律	・ 理学療法士及び作業療法士法 ・ 理学療法士に関する政令		
4	理学療法士の使命と倫理	・ 理学療法士の使命 ・ ラポール ・ 自己決定権 ・ 守秘義務と個人情報保護		
5	理学療法業務の質の向上	・ EBPT ・ リスク管理と危険予知 患者満足度		
6	理学療法業務の質の管理	・ 医療安全管理 ・ 法的責任と予見回避義務 ・ 感染予防		
7	医療保険制度における理学療法	・ 医療施設の分類と保険医療 ・ 保険医療と理学療法		
8	理学療法と施設基準	・ 疾患別リハビリテーション施設基準 ・ 診療報酬の改正		
9	理学療法の流れ	・ 臨床推論 ・ クリニカルパス ・ POS		
10	理学療法士の職場探求①	・ リハビリテーション分野の職場探求		
11	理学療法士の職場探求②	・ リハビリテーション分野の職場探求		
12	理学療法士の職場探求③	・ リハビリテーション分野の職場探求		
13	理学療法士の職場探求④	・ リハビリテーション分野の職場探求		
14	理学療法士としての未来	・ 未来の職場で求められる態度・知識・技術の情報共有		
15	理学療法教育	・ 卒前教育の到達目標 ・ 診療参加型臨床実習教育 ・ CBT、OSCE ・ 卒後教育システム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
理学療法概論(南江堂) 配布プリント		期末試験	100%	【準備学習】 使用された語句の 意味を復習する。

基礎理学療法学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法研究論Ⅰ		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	菅原 健太郎
授 業 の 概 要				
文献検索の方法を学び、抄読の習慣化、文献検索能力を高める。 参考文献、引用文献の意味を理解し、理学療法研究論2、3に繋げていく。				
授業終了時の到達目標				
・文献、論文をスムーズに読み、読解できる。 ・必要な文献を検索できるようになる。・作者の意図、研究結果を読み取ることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験あり□		
時間外に必要な学修				
読書習慣をつける				
回	テ ー マ	内 容		
1	レポート・論文の基礎知識①	1. 論文の組み立て方 2. 小論文・レポート・論文の違い		
2	レポート・論文の基礎知識②	3. レポート・論文は研修の「入口」 4. レポート・論文に必要なこと 5. レポート・論文の2つの型		
3	レポート・論文の準備 ～心構えから準備まで～①	1. 手を付ける前の「心構え」 2. 課題の内容を最初に理解する 3. レポート・論文のテーマの見つけ方		
4	レポート・論文の準備 ～心構えから準備まで～②	4. 調査の開始 5 自分で感じる 6. インターネット検索		
5	レポート・論文の準備 ～心構えから準備まで～③	7. 図書館で文献検索 8. その他の情報の探し方 9. 統計データやアンケートを扱う際の注意点		
6	レポート・論文の準備～資料の読み込みから問題整理まで～	1. 問題点を絞り込む 2. 問いを立てる 3. アウトラインを作成する		
7	組み立てて執筆する①	1. 事実と意見を明確に仕分けする 2. 構成を決める 3. 書式・文体などのルールを知る		
8	組み立てて執筆する①	4. 執筆する（序論・本論） 5. 用語を定義する		
9	組み立てて執筆する②	6. 本論をどう組み立てて、結果を導き出すか 7. 本論に図表を挿入する		
10	文章表現の向上①	200字作文できっちり段落構成		
11	文章表現の向上②	理論的で読みやすく仕上げる20のポイント		
12	引用・参考文献を正しく取りあつかう①	1. 文献などを正しく引用する 2. 剽窃（盗用）になっていないか検証する 3. 参考文献の書き方		
13	引用・参考文献を正しく取りあつかう②	4. 書き上げたレポート・論文の見直し 5. レポート・論文はどのように評価を受けるか		
14	文献の要約発表①	要約した文献のプレゼンテーション①		
15	文献の要約発表②	要約した文献のプレゼンテーション②		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！レポート・論文のまとめ方（すばる舎）		期末試験	100.0%	研究論Ⅱ～Ⅳに継続的に学んでいく教科

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツ科学Ⅰ		理学療法学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	菅原 健太郎
授 業 の 概 要				
スポーツ現場における論文の活用について学ぶ。 また、スポーツ科学分野の中で特に必要とされる体力の中から「視力」「筋力」「持久力」「瞬発力」「跳躍力」の5大基礎体力の測定方法を学修する。				
授業終了時の到達目標				
・ 論文の構成や執筆手順が理解できる。 ・ スポーツビジョンが運動パフォーマンスに与える影響について説明できる。 ・ 身体組成、視力、スポーツビジョン、筋力、持久力、瞬発力、跳躍力の測定方法が理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修				
・ 統計学で学習した内容を復習する。 ・ 体表面解剖学等で学習する骨格筋を正確に覚える。				
回	テ ー マ	内 容		
1	論文を読むことのメリット	論文が掲載されるまでの過程，論文を検索する		
2	論文の読み方	要約，緒言，方法，結果，考察		
3	よく出てくる統計の種類	統計の種類・解釈，評価基準の作成方法		
4	測定実習	身体組成&視力 測定方法理解		
5	測定実習	跳躍力&瞬発力 測定方法理解		
6	測定実習	筋力 測定方法理解		
7	測定実習	持久力 測定方法理解		
8	測定実習	測定結果のFB方法理解		
9	スポーツビジョンとは	スポーツビジョンの項目，スポーツ選手の見る力		
10	ものが見えるメカニズム，スポーツビジョンと競技パフォーマンス	眼球の構造，スポーツと関連する眼の機能		
11	眼の保護，スポーツビジョンのトレーニング	スポーツビジョン測定・評価実習		
12	視力測定実習	ラボでの実習（スポーツビジョン（と跳躍：人数が多い場合））		
13	視力測定実習	ラボでの実習（スポーツビジョン（と跳躍：人数が多い場合））		
14	視力測定実習	ラボでの実習（スポーツビジョン（と跳躍：人数が多い場合））FB		
15	講義のまとめ	講義の重要ポイントの再確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
スポーツ科学トレーナーの教科書 （NP0法人スポーツ科学トレーナー学院）		期末試験	100%	実習では積極的に参加すること

理学療法評価学

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法評価学Ⅰ		理学療法学科／1年	2025／後期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中嶋 志保
授 業 の 概 要				
理学療法評価の意義、目的と理学療法領域に必要な基本的身体機能検査法について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・医療情報収集の方法を理解する。 ・形態測定、関節可動域測定、感覚検査、反射検査が手順に沿って実施できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実践を通して身につく授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
学習した検査法について空き時間を利用して自主的に練習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	総論		理学療法における評価の意義、目的 理学療法評価の過程	
2	情報収集①		医学情報の種類 病歴のとり方	
3	情報収集②		問診、記録について ロールプレイ	
4	形態測定①		形態測定の意義 形態測定の種類	
5	形態測定②		形態測定の実際 結果の記録と解釈	
6	関節可動域測定①		身体の基本肢位と運動方向 関節可動域測定の目的、測定の手順と留意事項	
7	関節可動域測定②		肩甲帯・肩関節	
8	関節可動域測定③		肘関節、前腕、手関節 手指の関節	
9	関節可動域測定④		股関節、膝関節	
10	関節可動域測定⑤		足関節、足部、体幹	
11	関節可動域測定⑥		グループ学習とチェックシートによる採点	
12	知覚検査①		表在感覚・深部感覚・複合感覚検査 結果の判定と記録	
13	知覚検査②		疾患（病態）と感覚障害 グループ学習とチェックシートによる採点	
14	深部腱反射・病的反射①		反射の定義、反射弓、反射の種類 表在反射・深部腱反射・病的反射	
15	深部腱反射・病的反射②		反射の異常と解釈、疾患（病態）と反射 グループ学習とチェックシートによる採点	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
CrossLink 理学療法学テキスト 理学療法評価学（メジカルビュー社）		期末試験	100%	自主的に反復練習 し技術習得の努力 をしましょう

臨床実習

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
見学実習		理学療法学科／1年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
9時間	5回	1単位（45時間）	必須	菅原 健太郎
実 習 の 概 要				
学校が連携している臨床経験5年以上の理学療法士が勤務する医療施設または介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
・保健、医療、福祉の各分野の職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動がとれる。 ・臨床実習をとおして、自己の理学療法士としての自覚を高めることができる。 ・実践的コミュニケーション能力の習得方法を学ぶ。 ・模倣、実践、振り返りの中で習得方法を学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日のまとめと予習を行うこと。				
実 習 内 容				
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容				
・理学療法士による実践的コミュニケーションを体感する。 ・患者様の命と人生を左右する臨床現場の中で、年代層や生活背景、人格や会話力など多種多様なケースに対し、専門家としての適切な振る舞いや対応、会話などを見学する。 ・早期より地域に目を向け、通所もしくは訪問リハビリテーションの見学などを通じて、地域包括ケアシステムにおける理学療法士や関連専門職の役割を理解する。 ・診療補助体験や、患者像・障害像の把握を目的とした情報収集や問診等の体験を通じて、専門家としてのあるべき姿に気づく。				
2) 認知領域の実習内容				
・理学療法士が、「どんな障害を対象に、どのような方法で、何を目的に、どのような工夫や注意をしながら」理学療法を実施しているかを自ら聞きながら見学する。 ・臨床実習指導者にヒントを与えてもらい、学内で学んだ知識を想起する。				
3) 精神運動領域の実習内容				
・評価学で学んだ形態測定、関節可動域測定を臨床実習指導者の指示監督のもと経験する。 ・コミュニケーション論等で学んだ面接相談技術を用いて、臨床実習指導者の指示監督のもと医療面接を経験する。				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～④の教育ツールを使用する				
①デイリーノート ②自己研鑽ノート ③チェックリスト				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・臨床実習教育の手引き ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下の介入編		総括評定 課題	80% 20%	